

国立国語研究所学術情報リポジトリ

大規模方言談話資料にみる受話法の地域差

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002689

大規模方言談話資料にみる受話法の地域差

沖 裕子
(信州大学)

1. はじめに

本稿は、熊谷康雄氏が率いる国立国語研究所独創・発展型共同研究プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」の一環として行った研究成果の一部を記すものである。

大規模方言データのひとつである方言談話資料『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全 20 巻(注 1) をとりあげ(以後、『ふるさとことば集成』と略述)、それを利用したどのような分析が可能かを模索することがプロジェクト研究のテーマであった。本稿では、分析の 1 例として、会話冒頭部の型に地域差があることを、大規模方言談話資料を用いた観察から帰納的に指摘する。

一般に、文法を意識せずに話者は言語を用いている。本稿が対象とする、会話冒頭部の使用傾向についても、おそらく話者が意識することは稀であろう。しかしながら、自然談話資料を観察することにより、こうした、ふだんは意識することのない表現法のありかたが観察可能になる。

談話の文法は、構文における文法のように、それを逸脱すると正文とならないような強固な文法だけではない。談話の文法は、談話性(テキスト性)に関わる強固な文法とともに、その言語らしい使用傾向(くせ)を体現する表現法のレベルにも存在している。後者は、適切性にかかわる文法であるといってよいであろう。談話が談話として構築される文法のことを結節法と呼ぶ(沖 2006,2010)が、結節法は、文文法とはレベルを異にしている。結節法は、談話性にかかわる談話文法と適切性にかかわる表現法を含む規則として位置づけられる。

本稿は、談話結節法の記述的研究およびその変異研究の一環として行うものである。

2. 談話論からみる『ふるさとことば集成』の性格と活用

『ふるさとことば集成』は、各都道府県 1 地点ずつ(沖縄県は 2 地点)、約 30 分前後の、親しい話者同士の方言会話を収録文字化している。当地生え抜きの方言話者による往時の生活の思い出話という点で談話種に共通性がみられるが、語られているテーマ、会話参加者の人数、話者同士の性別は、多様である。一般に談話研究に利用する談話資料には、おおむね(1)条件を統制した実験による談話、(2)自然談話、の 2 種がある。『ふるさとことば集成』は、(1)をゆるやかに適用した(2)のタイプの大規模方言談話資料として位置づけられる。

こうした自然談話資料を用いた研究では、比較に堪える観察視点を抽出することが

重要である。

方言談話資料（自然談話資料）は、音声・音韻、語彙、語法などの自然な使われ方の生きた用例集として利用されることが多いが、方言談話資料を、談話そのものの研究として活用する研究事例は、さほど多くはない。談話論そのものが研究途上にあるため、研究的な観察視点を立てにくいという事情があるうえに、「自然談話資料を利用してどのような談話研究が可能か」という問もまた積極的に問われることが少なかったからであろう。熊谷プロジェクトの研究の目的は、後者の問を立てるところに特長がある。

3. 受話法とは—本稿の目的—

大規模方言談話資料を用いた研究の1例として、本稿では、受話法に注目した分析を行いたい。受話法とは何かについて、まず、説明をしておきたい。

受話法とは、相手の会話を受けるときの結節法を指して用いる。会話は、相手発話を自発話のなかにとりこみ、位置づけながら展開していく。相手発話をどのように自発話のなかにとりこみ位置づけていくか、そのしくみの総称を受話法と名づけたい。

受話法についての具体的な記述のひとつは、あいづち研究に求められる。あいづちは、その形式、機能、打ち方について、種々の研究がなされている。あいづちは、会話という相互行為において、相手発話と自発話を関係づけるしかたのひとつであり、この点で、ひろくは受話法のひとつであるといつてよいと思う。

さて、本稿が観察対象とするのは、会話冒頭部である。発話者の交替に際して、冒頭に相手発話と自発話の関係づけを示す形式を用いるか否か、また、用いるとしたらどのように行うかを観察するものである。

当然ながら、会話冒頭だけではなく、続く実質的発話内容においても相手発話との関係づけが示されることがある。それを承知したうえで、本稿では、会話冒頭部のみに対象を限り、後続する談話との関係をひとまず切り離して、大規模方言談話資料から帰納的に観察される場所を分析、考察したいと思う。会話は、時間軸に沿って進行し、不可逆的である。各話者それぞれの短期記憶におさまる範囲内で再解釈や構造化が更新されながら推進されていくものと仮定されるが、話者交替した直後は、発話列が相手発話に直接に後続する箇所にあたるため、これをどのように続けるかについては、各方言における傾向性が端的に現れる部分ではないかと思われる。そのため、こうした相手発話と自発話の接続部分である会話冒頭部に着目するものである。

ちなみに、談話の結束性や整合性という概念は、テキストをテキストたらしめるしくみとして、斯会にすでに共有されているといつてよいと思うが、結束性や整合性は、文章あるいは独話のテキスト性を対象とした概念である。文章や独話では、表現者は、テキストを時間的制約から解放されたところで自己ひとりによって管理し、表現することができる（注2）ところが会話は、複数の話者によって推進、管理されていく。話者Aがそう推進させたいと思っても、話者Bがそう考えていなければ、話者Aひとりが考えるようには推進できない。すなわち、会話は、1者だけで管理すること

ができないものである。その点で、「会話のしくみ」は、文章や独話のテキスト性とは別の側面を考える必要が出てくるといえる。結束性や整合性を、異なる話者のテキストを結ぶ概念としても用いてよいかどうかは、なお慎重な議論を要することと考え、本稿では、異なる話者のテキスト相互の関係づけに際してこの用語を用いることを控えることにする。

繰り返しになるが、ここでは、話者交替の際に、他者テキストを、どのように自者テキストのうちに関係づけるか、その受話法を、会話冒頭部に限定して分析し、地域差の有無を観察しようとするところに、研究目的をおいた。

4. 対象資料

会話は、参加者数によって、その談話展開に異なったしくみが認められることが指摘されている。そこで、会話参加者数別にみると、『ふるさとことば集成』の地点数は、【表1】のようである。

【表1】会話参加者数と地点数

2者会話	3者会話	4者会話	5者会話	6者会話	合計
12地点	28地点	6地点	1地点	7地点	48地点

参加者2名からなる2者会話は、2者が参加することで会話が成立する形態である。参加者が2名であるため、両者ともが会話に参加しなければ、そもそも会話が成立しない。どうであれ、必ず相手発話と向き合う必要が生じるのが2者会話である。そのため、受話法の基本的様態を観察するためには、2者会話からはじめることがよいかと思われる。

『ふるさとことば集成』に含まれる2者会話は、次の12地点である。しかし、これらのなかには、調査員が会話に参加して結果的に3者会話になっている談話（下線を施した地点）が含まれている。それを除くと8地点が対象となる。

方言話者同士の2者会話の点（下線部は、調査員が参加した3者以上の会話）

岩手県、茨城県、千葉県、東京都、奈良県、兵庫県、岡山県、鳥取県、高知県、宮崎県、長崎県、沖縄県 A

本稿では、ここから、岩手県遠野市、東京都台東区、奈良県五條市の3地点をとりあげて分析考察を行いたい（以後、これらの談話資料を、岩手県、東京都、奈良県と略す）。なお、各地点の調査概要は、下記のように記されている。

岩手県談話資料

岩手県遠野市 1980 談話

収録地点 岩手県遠野市（とおのし）土淵町（つちぶちちょう）土淵（つちぶち）

収録日時 1980(昭和55)年8月7日

収録場所 岩手県遠野市土淵町土淵 土淵地区センターホール

話題 ご祝儀のこと

話者

A 女 1914(大正3)年(収録時 66 歳) 農業

B 男 1917(大正6)年(収録時 63 歳) 農業

調査者

男 (収録談話中に発話なし) 岩手県教育委員会職員

男 (収録談話中に発話なし) 高校教諭

男 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 46 分 52 秒

東京都談話資料

東京都台東区 1980 談話

収録地点 東京都台東区

収録日時 1980(昭和55)年3月13日

収録場所 上野公園 東京都美術館 集会室

話題 年末年始, 初午, ほおずき市

話者

A 男 1911(明治44)年生(収録時 69 歳) 画版業

B 女 1907(明治40)年生(収録時 73 歳) 無職

調査員

女 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 34 分 51 秒

奈良県談話資料

奈良県五條市 1981 談話

収録地点 奈良県五條市（ごじょうし）五條（ごじょう）

収録日時 1981(昭和56)年9月15日

収録場所 —————

話題 趣味と病気の話, 商売と跡取り, 害虫と自然

話者

A 男 明治 40 年生(収録時 74 歳)

B 女 大正 12 年生(収録時 58 歳)

調査員

男 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 33 分 39 秒

5. 資料作成方法

ここでは、先に述べた資料を対象に、下記①から④の方法で観察資料を作成する。『ふるさとことば集成』の文字化方針を尊重し、交替箇所の実質的会話が続く冒頭部に注目する。

- ①「話者交替があった場合、その冒頭の語詞を、会話参加者別に集計して示す。
- ②「話者交替の箇所は、文字化資料を尊重して行う。
- ③「音声と照合した場合、話者交替の示し方における別の解釈が生じる場合があるが、②による。
- ④「実質的な発話が後続しないあいづちなどは、文字化資料では、括弧内に示されている。こうした発話は、対象としない。

①については、音声付談話資料を聞きなおし、文字化資料や注記を参照しながら、判断していく。後述するように、会話冒頭の語詞は俚言形が用いられるとともに、その機能や運用法に異なりがあり、各地域の言語体系をふまえた分析と分類が必要になる。共通語のあいづちには先行研究も多いが、方言のあいづちについては未解明な部分も多く、本稿の分類もそうした研究の進展に伴い、再分類される可能性を残すかと思う。

また、会話冒頭部の発話が、複数の分類が可能な場合もみられる。この場合は、イントネーション(句音調)、プロミネンス、ポーズなどの音声情報も参照しながら、最終的にひとつの用法を認めて分類した(注3)。この分類のしかたについても、判断がひとつに収束するかどうかを含め、再考の余地があるかもしれない。

6. 会話冒頭部における型の地域差

6. 1 とりこみ型と直截型の対立からみた地域差

岩手県、東京都、奈良県の会話冒頭部における相手発話との関係づけの有無をみたとき、大別すると次の2類が観察される。

とりこみ型：会話冒頭部に、相手発話との何らかの関係づけをあらわす語詞をとる
結節法

直截型：会話冒頭に、相手発話との関係づけを示す語詞をとらず、ただちに実質的会話内容に入る結節法

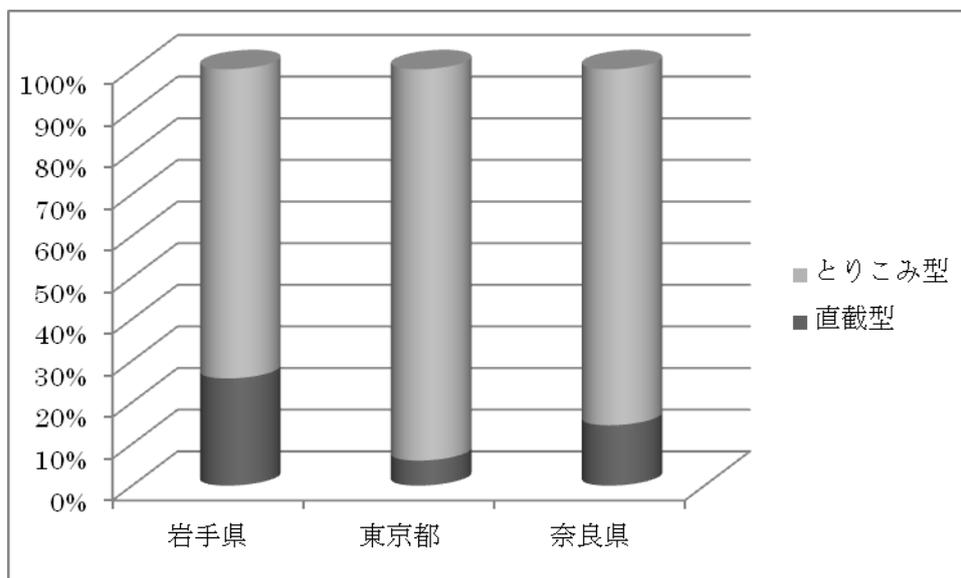
この、とりこみ型と直截型との割合の地域差を示してみたものが【図1】である。なお、第5節で記したように、本稿の分類は会話冒頭部におけるとりこみ語詞の有無のみに注目したもので、続く実質的会話部分に他者テキストとの関係づけを示す方策があっても、ここでは計量の対象としてはいない。あくまでも話者交替した直後の談話冒頭部に注目したものである。

【図1】に示したように、岩手県は、直截型が全体の25.8%であるのに対して、東京

都の直截型は6.0%しかない。これらに対して、奈良県は14.5%と中間的な値を示している。この数値は、何を示しているのだろうか。

【図1】会話冒頭部の受話法（岩手県・東京都・奈良県）

(%)



	岩手県	東京都	奈良県
直截型	25.8	6	14.5
とりこみ型	74.4	93.8	85.5
合計 (%)	100.2	99.8	100

	岩手県	東京都	奈良県
直截型	216	155	142
とりこみ型	75	10	24
合計 (度数)	291	165	166

談話は、時間とともに推進され、後戻りすることはない。時間軸に沿って展開していく性質を有している。話者交替したときの会話冒頭部に、相手テキストとの関係をつける語詞をまず置き、しかるのち実質的会話内容に入っていくのが、とりこみ型である。東京都は、このとりこみ型発話が徹底しているといってよい。つまりは、相手の発話をふまえて自分の発話を始めるという結節法が表現様式として確立している方言といつてよいであろう。それに対して、岩手県は、そうした結節法は徹底されず、話者交替がおこる発話冒頭において、相手テキストとの関係を示さず直截に自発話の実質的展開に入る結節法の比率が、東京都より高い方言である。(ただし、岩手県も全体の4分の3はとりこみ型であるので、とりこみ型が表現様式の基調をなしていることに変わりはない)

い。)

さて、1地域における「直截型／とりこみ型」の出現比率は、社会言語学的にみると、その方言が有している待遇意識の差に由来しているのではないかと考える。東京都は、会話冒頭部をみる限り、直截型の割合がたいへん低く、常に相手発話を意識した語詞で会話をはじめた談話展開になっている。それに対して、岩手県は、忖度せず、単刀直入に本題に入ることがある率直な談話展開がみられる。少なくとも、会話冒頭部における相手発話とのつながりをつける言語形式の出現頻度という観点から観察した場合に、こうした地域差が観察されるのである。換言すれば、相手への配慮のしかたが、方言によって異なっていると述べることができよう。

ちなみに、こうした実態は次のような接触上の問題を生む可能性があるかもしれない。当該言語共同体に属し、同一の言語文化を共有している場合は、会話様式を共有しているため何の問題も起こらないが、直截型の比率の高い言語話者（岩手県）と、直截型の比率の低い言語話者（東京都）が接触した場合には、お互いに違和感を持ちそうな会話様式の差異が存在しているといってもよいのではないだろうか。こうした差異は気づかれにくいために、いっそう、「説明のつきにくい違和感」となる可能性がある。

なお、「直截型／とりこみ型」の出現頻度は、地理的分布を示す可能性がある。『ふるさとことば集成』に多い3者会話を瞥見すると、直截型の出現頻度の高い地域が、地理的にまとまってみられる傾向があるからである。

6. 2 とりこみ型の出現率からみた地域差

つぎに、どのような語詞によって相手発話のとりこみを行っているか観察したい。

【図2】に示したのは、以下の①から⑦の地点別出現率である。なお、分析の具体例については、本稿末に【資料1～3】として掲げた。資料中の①から⑦は、下記の分類に対応している。

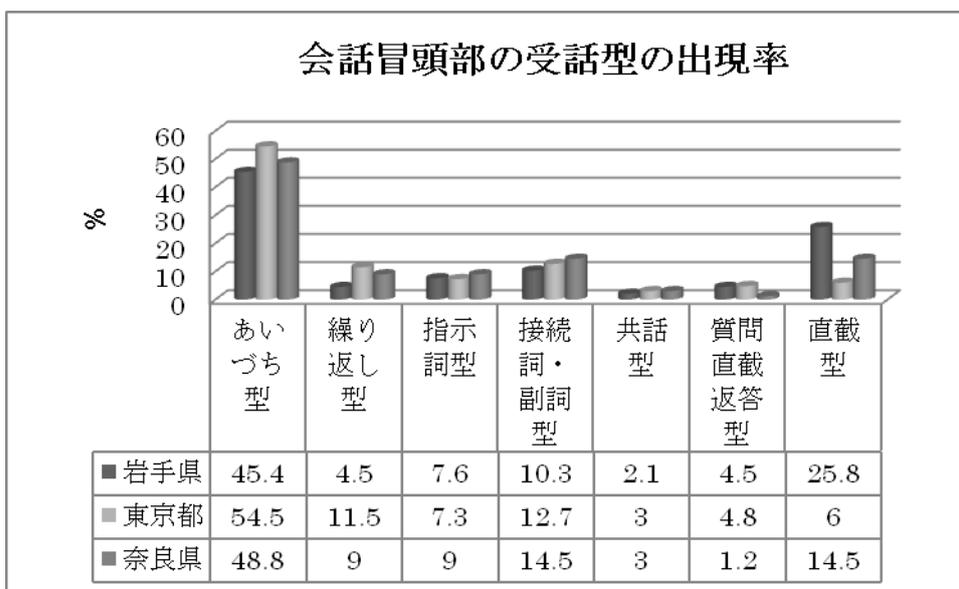
- ① あいづち型
- ② 繰り返し型
- ③ 指示詞型
- ④ 接続詞・副詞型
- ⑤ 共話型
- ⑥ 質問直截返答型
- ⑦ 直截型

直截型を除いたとりこみ型は、6種類が観察された。（対象地域を広げてみると、このほかにも、たとえば「ためらい型」などが出現するが、この3地点の2者会話をみる限りは、この6種類であった。）

あいづち型は、相手発話に対する反応を表現する語詞による関係づけである。②指示詞型は、照応による関係づけ、③繰り返し型は同一語句による関係づけ、④接続詞・副詞型は、語詞自体が、それより前の文脈と関係づけを行う意味を語義のうちに有しており、意

味的な関係づけを行っている。⑤共話型は協働的文構築、⑥質問直接返答型は隣接ペアによる関係づけである。なお、⑦直截型とは、関係づけを行う特段の形式がなく直接自発話文脈に入るものである。

【図2】 会話冒頭部の受話型の出現率 [2者会話：岩手県・東京都・奈良県]



	岩手県	東京都	奈良県
あいづち	132	90	81
繰り返し	13	19	15
指示詞	22	12	15
接続詞・副詞	30	21	24
共話	6	5	5
質問直截返答	13	8	2
直截	75	10	24
合計 (度数)	291	165	166

岩手県、東京都、奈良県を比較対照すると、【図2】からは次のようなことが分かる。

- (1) 岩手県は、⑥直截型の比率が比較的高く、②繰り返し型が他2地点と比べて、比較的低い。
- (2) 東京都は、①あいづち型、②繰り返し型、⑥質問直截返答型が、他2地点より比率が高く、⑦直截型の比率が低い。
- (3) 奈良県は、⑥質問直截返答型が他2地点より低い。

以上の観察をふまえながら、次節では、3地域の特徴を、各型に含まれる形式を具体

的にみることで分析考察していきたい。

7. 会話冒頭部における形式の地域差

7. 1 あいづち型に含まれる形式の地域差

あいづちの分類には、ザトラウスキー、ポリー（1993）、メイナード、K・泉子（1993）堀口純子（1997）などの先行研究があり、諸説が提出されている。本稿では、あいづちそのものの体系的記述が直接の目的ではないため、談話資料の当該位置に出現するあいづちのみを帰納的に分類した。その結果、形式の点から観察すると、あいづちに次の2種が認められた。

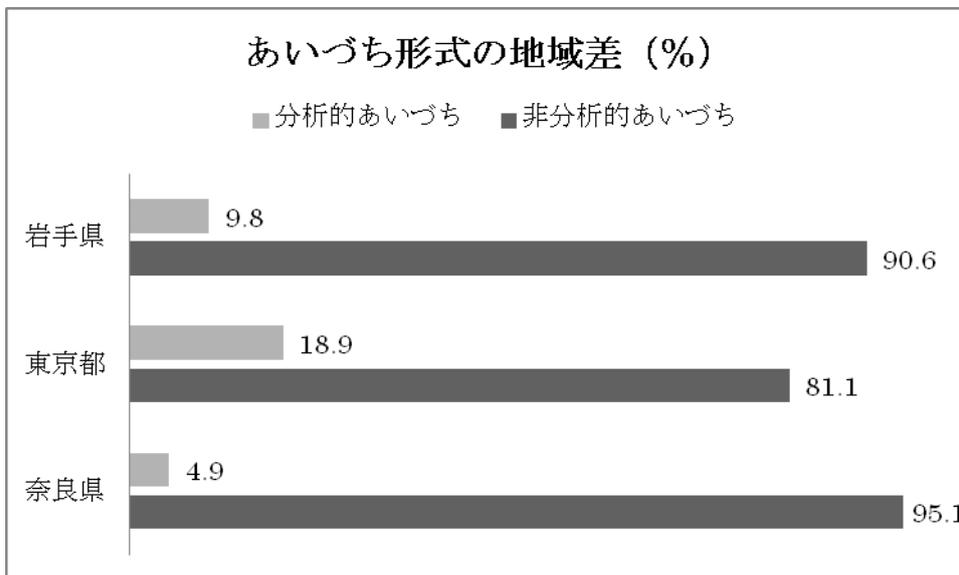
- (a) 非分析的あいづち
- (b) 分析的あいづち

非分析的あいづちとは、東京都資料から例をあげれば、「ネー、ア、アー、シー」「ウン、ソー、ハー、アー、ウーン」などのように、主として感動詞による表現である。また、分析的あいづちとは、「ソーナダネー、ホントネ、ソーナノネー、ソーカモシレナイワネー、ホントー、ソレワソーデスネ」「ドコデモヤリマシタネ、ソーナノヨ、マッタク」などのように、1音調句で発話された句や文で表現されるあいづちである。これらは、相手発話の質問や確認に実質的に答えるというより、発話者の気分の表出や応答を表現することに主眼があり、あいづちの一種と考えられる。

これら、非分析的あいづちと、分析的あいづちの出現比率をみたものが、【図3】である。東京都では、分析的あいづちの出現率が、岩手県、奈良県よりも際立って高くなっていることが分かる。（東京都のこの傾向は、大規模方言データのひとつである日本放送協会（編）『全国方言資料』に収録された東京都自然談話資料をみてもそれが窺われる。）

なお、あいづちには、表出や応答などを始め、種々の機能があることが指摘されているが、方言におけるあいづち研究はさほど多くはない。先に、6.2 節【図2】で、岩手県は「同一語句の繰り返し」が他地域より低いことを指摘したが、あいづちの機能とかがかわる可能性がある。岩手県に多くみられるあいづち「ウン」「ハーハーハーハー」などの語詞（本稿の非分析的あいづち）は、相手の発話を聞いているという標識であることが多く、応答（返答）をする場合には、相手語句の繰り返しによって明示的にそれを示す傾向があるというのである（岩手県出身の方言研究者竹田晃子氏談・2013年3月20日於国立国語研究所）。「同一語句の繰り返し」がこうした機能をも担うとしたら、相手発話の質問がなければ出現しにくいことから、岩手県における【図2】の出現率の低さもうなずける。この点から、今後は、「あいづち型」に含めた語詞を再考する必要もあることと思う。

【図3】 あいづち形式の地域差



	岩手県	東京都	奈良県
非分析的あいづち	119	73	77
分析的あいづち	13	17	4
合計(度数)	132	90	81

7. 2 接続詞・副詞型に含まれる形式の地域差

次に、接続詞・副詞型に含まれる形式の地域差についてみたい。地域別にみた、接続詞・副詞型の種類を出現度数別に一覧したものが【表2】、また、それらをグラフ化したものが【図4】である。母数が少ないが、地域差の比較のために、図は、パーセンテージで示した。

これらを見ると、接続詞・副詞型に属する形式とその種別には、地域差があることがみてとれる。岩手県は、順接接続詞を用いることが多く、東京都は、理由接続詞を用いることが多く、また、奈良県は、「ホンデ」等の接続詞とともに副詞を多用していることが明瞭に読みとれる。

なお、「それで」「ほんで」等の接続詞は、意味・用法の地域差（気づかれにくい方言）があり、注意が必要である。「それで」については、東京語では、前件を理由として後件につなぐ用法であるのに対して、長野県伊那地方や関西方言の「それで」には、因果関係を示さずに、前件と後件を累加的に結ぶ用法があることが指摘されている（沖裕子 2008）。ただ、『ふるさとことば集成』の東京都談話をつぶさにみると、因果関係を示す用法とともに、一見したところでは因果関係がないまま前件と後件を結ぶ用法にみえる用法も含まれていた。そのため、ここでは、そうした気づかれにくい意味の差を措いて「ソレデ」「デ」「ホンデ」などは、理由接続詞に分類してあるが、これを用法ごとに検討し、順接接続詞にも厳密に分類すれば、東京都、奈良県の順接接続詞

の比率はあがることになる。

【表2】会話冒頭部に出現する接続詞・副詞の形式一覧

(凡例) 分類1：順接接続詞 2：逆接接続詞 3：理由接続詞 4：副詞

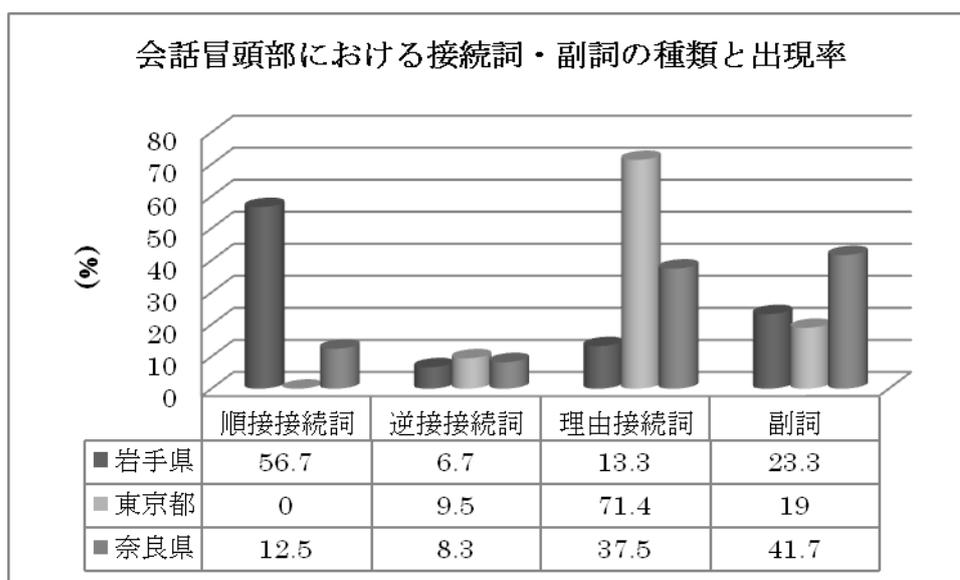
分類	岩手県	度数	分類	東京都	度数	分類	奈良県	度数
1	ソステ	11	2	デモ	1	1	ホテ	1
	ソーステ	2		ダケド	1		ソシテ	1
	ソスッテ	1	3	ホット	1		ホシテ	1
	ステ	2		ダカラ	2	セヤケド	1	
	ソステガラ	1		ダカラネ	1	ソヤケド	1	
2	デモナ	1	3	ダカラネ	1	3	ホタ	1
	ンデモ	1		ソイデ	1		ホンナラ	1
3	ンダガラ	2		ソエデ	1		ホンデ	3
	ンッデア	1		ソエデネ	1		ホンデー	2
	デネンバ	1		ンデ	1		フンデンー	1
4	マズ	1	4	ンデネ	1	ホデ	1	
	トニカグ	2		デ	5	マー	4	
	トニカングー	1		タダ	1	マ	1	
	ヤッパ	1		トニカク	1	モー	1	
	ヤッパリー	2		マッタク	1	モ	1	
合計	30		モー	1	モーナ	1		
			合計	21		チョード	1	
						ヤッパイ	1	
						合計	24	

さて、接続詞・副詞語彙による、相手発話の自発話へのとりこみを観察すると、おおむね、次のようなことが言えそうである。岩手県は、「ソシテ」を多用しつつ「トニカク」「ヤッパリ」なども用いながら、順接接続詞や副詞によって相手発話を自発話にとりこんでいる。東京都は、「ダカラ」「デ」などを多用して、理由接続詞によって相手発話を自発話にとりこんでいる。奈良県は、(累加用法の接続詞)「ホンデ」とともに、「マー」などの副詞類を利用して、相手発話を自発話にとりこんでいる。接続詞・副詞型の使用率は、3地域ともに大差はないが、それに用いられている形式そのものに焦点をあてると、地域差がみえてくるといえよう。

こうした視点は、早く久木田恵(1990)が指摘したことでもある(注4)。本稿の結果をみると、東京都、奈良県は、独話資料によって指摘された久木田恵(1990)と一部重なる様相が観察された。それに対して、岩手県は、久木田恵(1992)によれば、「ダカラ」が文頭に来ることが特徴的だとされていることと多少異なる結果になった。

話資料における会話冒頭部（本稿）と、独話部分（久木田氏）という違いも反映している可能性も否定できないが、「ソーシテ、ソシテ、ソーシット」を多用するとされる山形県の談話展開に近い（ただし、本稿の岩手県でも、ダカは複数例使用されている）。談話展開の地域差の具体的な研究は、分析方法の開拓と資料を用いた検証を、今後も積み上げる必要がある。また、分布境界の解明にいたっては、手つかずといってもよい。談今後の課題として、記しておきたい。

【図 4】 会話冒頭部における接続詞・副詞の種類と出現率（％）



	順接続詞	逆接続詞	理由接続詞	副詞	合計(度数)
岩手県	17	2	4	7	30
東京都	0	2	15	4	21
奈良県	3	2	9	10	24

8. おわりに

会話冒頭部の受話法にみる地域差について、以上の観察と分析から考察したところをまとめておきたい。

大規模自然談話資料のひとつである『日本のふるさとことば集成』から、岩手県遠野市、東京都台東区、奈良県五條市を対象に、会話冒頭部の結節法を比較対照した。『日本のふるさとことば集成』は、1980年前後に文化庁が行った各地方言収集緊急調査における文字化資料をもとに、国立国語研究所が音声付談話資料として再文字化を行ったものである。本稿が対象とした3地点は、30分前後の生え抜きによる2者会話であり、思い出を語るという点で共通している。話者交替した直後は、発話列が相手発話に直接に後続する箇所にあたるため、これをどのように続けるかについては、各

方言における傾向性が端的に現れる部分ではないかと思われる。そのため、こうした相手発話と自発話の接続部分である会話冒頭部に着目して分析考察することで、地域差を明らかにしようとした。

会話冒頭部は、相手発話を自発話に関係づける語詞等ではじめる「とりこみ型」と、そうした語詞がみられない「直截型」に大別された。各地域の出現比率を比較すると、直截型の比率が高いのは岩手県（25.8%）で、低いのは東京都（6.0%）であり、奈良県（14.5%）は、その中間であった。東京都は、相手発話をふまえて自発話を始めるという結節法が表現様式として確立している方言といえる。

また、とりこみ型は、6種類に下位分類された。あいづち型、繰り返し型、指示詞型、接続詞・副詞型、共話型、質問直截返答型である。それぞれの型として表れる形式を詳しく観察すると、次のようなことが明らかになった。

あいづち型は、「ネー、ウン、ソー、ハー」などの主として感動詞による非分析的あいづちと、「アーソーデスカ、ホントネ、ソーナノヨ」などの1音調句で発話される句や文による分析的あいづちがある。後者の比率が高いのは東京都（18.9%）、低いのは奈良県（4.9%）で、岩手県（9.8%）は、その中間であった。

接続詞・副詞型に含まれる形式をみると、岩手県は順接接続詞、東京都は理由接続詞、奈良県は副詞の使用が特徴的であった。具体的には、岩手県は「ソシテ」など、東京都は「ダカラ」「デ」など、奈良県は「(累加型接続詞の)ホンデ」「マー」などを多用しており、地域差がみられた。この結果は、独話資料をもちいた先行研究で指摘されてきた談話展開の地域差の様相と部分的に重なるところがあった。

今後は、談話展開の地域差を解明するために、分析方法の開拓と談話資料による実証を進め、現代日本方言における分布についても明らかにしていく必要がある。

キーワード：自然談話資料 岩手県遠野市 東京都台東区 奈良県五條市
待遇意識 会話冒頭部 談話展開 談話の地域

謝辞 国立国語研究所独創・発展型共同研究プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」（代表：熊谷康雄）および日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C「発想と表現からみる日本語談話の対照談話論的研究」（2012～2014年、課題番号24520498、研究代表者沖裕子）から助成を受けた成果の一部であることを記し、謝意を表す。また、本稿を成すにあたり、同プロジェクトによる公開研究会で行った発表に際し、席上、重要なご指摘を賜りましたことに感謝申し上げます。

注

注1) 音声付文字化資料。文化庁が行った各地方言収集緊急調査（1977～1985年）から、各都道府県1地点（沖縄県は2地点）をとりあげ、国立国語研究所（井上文字子氏）がデータベース化し、国書刊行会から出版したもの。本データベースがまとめられ公刊されるまでには、文化庁の企画に協力した話者や調査者、最初の文字化資料作成者をはじめとして、文化庁文字化資料を聞きなおし再文字化した協力者ほか、実に多くの方の手を経ていると聞く。その恩恵を受けることに対して、

心より御礼を申し上げます。また、本稿を成すにあたっては、国立国語研究所共同研究プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」の研究の一環として、プロジェクト代表者熊谷康雄氏による、同資料の利用の便を向上させたデータベースを利用させていただいた。合わせて深謝申し上げます。

注 2) ただし、すべての人が文章を巧みに管理し、表現できるとは限らない。また、テキスト性に欠ける文章でも、読み手は補完的に意味をくみとることがある。

注 3) 1 例として、岩手県 32A をあげておきたい。31B に「ハンベア」という語句があるため、32A の「ハンベアッテ」は②繰り返し型にもみられる。しかし、音声を聞いてみると、32A は、30A の「ガッタルハンベアッテナー」から続いており、31B を顧慮して「ハンベア」を繰り返したのではなく、自発話 30A の続きとして発話しているように聞こえる。そのため、⑦直截型と判断したものである。

X6 サンサ キッテ ナラエ、アノ

X6 さんのところへ 来て 習え あの

カミバ ユッテモラッテアッタ。(B ハハハハー)

髪を 結ってもらっていた。(B そうかそうか)

ソスッテ アノ、ガッタルハンベア [38] ッテナー。

そして あの「がったり半兵衛」ってね。

31B : ①ウン ウン ハンベ アッタ アッタ。

うん うん 半兵衛 [自動車]。 あった あった。

32A : ⑦ハンベア ッテ アノー、(B ハンベズンドシャ) ウン

半兵衛 って あの (B 半兵衛自動車) そう。

ジョーヨーシャ エンズンデエ アツタンダ アンドギアナ。

乗用車 [が] 1 台、 あったんだ、 あの時はな。

(B ウン ウン ウン) アレサ ノシェラレデ

(B うん うん うん) あれに 乗せられて [きた]

注4) 久木田恵 (1990) は、文頭、文中、文末の語詞に注目することで談話展開の地域差を解明する方法を開拓した。東京方言は「ダカラ」や「ホラ」を多用する談話展開であるのに対して、関西方言 (能勢方言) は「ヘテ」「ヘタラ」「ホイデ ナー」と、順接の接続詞によって説明を累加する形で談話展開すると指摘している。

参考文献

沖裕子 (1994) 「方言談話にみる感謝表現の成立—発話受話行為の分析—」『日本語学』13(8), 28-37, 明治書院 (沖 2006 に収録) .

沖裕子 (2006) 『日本語談話論』和泉書院.

沖裕子 (2008) 「気づかれにくい方言「それで」」『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』304-322, 桂書房.

沖裕子 (2010) 「日本語依頼談話の結節法」『日本語学研究』28, 119-136, 韓国日本語学会.

沖裕子 (2012a) 「談話資料論と研究の可能性—生活談話資料の活用—」「大規模方言データの多角的分析」研究会 於国立国語研究所、2012年3月19日.

- 沖裕子 (2012b) 「大規模自然談話資料の活用可能性—表現法と受話法の観点から受話冒頭に注目して—」 「大規模方言データの多角的分析」 公開研究会, 於東北大学, 2012年8月25日.
- 沖裕子 (2012c) 「大規模方言談話資料にみる受話法」 「大規模方言データの多角的分析」 公開研究会, 於全国町村会館, 2012年12月16日.
- 久木田恵 (1990) 「東京方言の談話展開の方法」 『国語学』 162,90-100.
- 久木田恵 (1992) 「北部東北方言の談話展開の方法」 『小林芳規博士退官記念 国語学論集』 777-797, 汲古書院.
- 久木田恵 (2008) 「愛知県岡崎市方言の談話資料」 『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』 342-354, 桂書房.
- 国立国語研究所 (2001-2008) 『国立国語研究所資料集 13-1~20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』 全20巻, 国書刊行会.
- 小林隆・篠崎晃一 (2010) 『方言の発見—知られざる地域差を知る』 ひつじ書房.
- ザトラウスキー、ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』 くろしお出版.
- 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一 (1997) 『文章・談話のしくみ』 おうふう.
- 日本放送協会 (編) 『CD-ROM版 全国方言資料』 全12巻, NHK出版.
- 水谷信子 (1985) 『日英比較話しことばの文法』 くろしお出版.
- メイナード、K・泉子 (1993) 『会話分析』 くろしお出版.
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』 くろしお出版.

【資料1】岩手県遠野市 (部分)

- 1B : ⑦ X1 オンバ [1] ア ナンボノ、 ナッタ ドギー
 X1 おばさんは 何歳× [=に] なった 時に
 アノ、 イヨメゴニ ナッタッター。
 あの 嫁に なった？
- 2A : ⑥ アーレア X1 ゴダ [2] ズーリエガラナー、 (B ウン)
 あれは、 X1 というのは ずるいからな、 (B うん)
 ズット アドン ナッテガラダンジェ。
 [嫁に行ったのは] ずっと あとに なってからだぞ。
 (B ハー) オレド X2 オンズ [3] ド
 (B そうか) 私と X2 おじさんと
 ドッキューシェーダンドモナー、 (B ウン)
 同級生だけれどもな、 (B うん)
 オリア ハー [4] ホンートニ ワゲ ワガンネ
 私は もう 本当に わけ [が] わからない、
 アエズ。 ソステナー (B ウン) オレノ キョンデア
 あいつ。 そしてな、 (B うん) 私の 姉妹は
 オナコ° バリ ゴニンダンベー。 (B ウン)
 女ばかり 5人だろう？ (B うん)

ソスダ キョーンデーウズデ オレア エズバンノ
 そうしたら、姉妹 [の] 中で 私は いちばんの、
 ソノ オストムゲ [5] ダッタオンヤー。 (B ハハハハー)
 その お人好しだったからさ。 (B そうかそうか)
 ソンゴンディエ、 (B ウン) ソノ オレー ナニーヌモ
 そこで、 (B うん) その 私は なんにも、
 ソンナナ キモ ネア ッシャネ ウズヌ、
 そんな [=嫁に行く] 気も ない、知らない うちに
 (B ウン) オヤダンズァ キメダモンダ。
 (B うん) 親たちは [縁談を] 決めたものだ。
 3B : ⑦ナ ナニノ ゴドナンダ ソノ キモ ネア、 ドガ
 × なんの ことなんだ、その、気も ない とか、
 ナント ユー ゴドァヨー。 ン
 などと いう ことはよ。 うん
 4A : ⑥オードゴノ ッキモ ヨメゴノ ッキモ
 男の [いる] 雰囲気も 嫁の 気 [=嫁になる気] も
 (B ハハハハハー ソノゴドガー アー) ナ {笑}、
 (B そうかそうか そのことか ああ) × {笑}、
 ナンニモ エッコーニ ッシャネガッタノヨ。
 なんにも 一向に 知らなかったのよ。
 5B : ①ハー。 ヤパリ ナゴンドマガシェガ。
 そうか。 やっぱり [結婚は] 仲人任せか。
 6A : ⑥ナーゴーンドーマガーシェ、 ナ ソッターラー ソリエ、
 仲人任せ、だ。 そしたら、 ほら、
 キョーンデアウンズデナー、 (B ウン)
 [親の気持ちでは] 姉妹のうちでね、 (B うん)
 エンズバン ソノ アダマー ケアネー [6] ガラ、
 [私は] いちばん、その 頭 [が] よくないから、
 ヌダヨナ ムンゴデモ トッテー [7] (B ウン)
 似たような 婿でも 取って (B うん)
 ウ ソノー、 タモ ハダゲモ イッペ アッカラ ソノ、
 うん その 田も 畑も たくさん あるから その、
 (B ウン ウン) ササコ° ヤ [8] ッコンデモ タンデデ
 (B うん うん) 簡単な小屋でも 建てて、
 オグキダッタタンダンド。
 [私と相手を] 置くつもりだったんだって。
 7B : ①ハー ウン ベッケ [9] ニデモナ。 ウン
 ああ、 うん、 別家にでもな。 うん。
 8A : ①ウン ソースタ ドゴロァ ソノ、 ノサギ [10] ノ
 うん。 そうした ところが、 その 野崎の

X3 ドツカラ エッタワゲダ。
X3 [=Aの夫] の家から [縁談が] 行ったわけだ。
(B ウン) ソスタドゴロア X3 ア、
(B うん) そうしたところが、X3 は
ソレー、クラスンデモ、ユーシユンダッタモンヤ。
それ クラスでも 優秀だったものね。
(B ウン ウン ウン ウン) コートーカンデモ
(B うん うん うん うん) 高等科でも
キューチョダッタガラ。(B ハハハハハハハ)
級長だったから。(B そうかそうか)
オラー [11] ゴネンシエノ ドギ、アノシッタズア
私が 5年生の時、あの人たちは
コッ、コートーニネンデアッタモ。(B ハハハハハ)
×× 高等2年だったもの。(B そうかそうか)
ソステー、キューチャー ヤッテラ フトダッタガラナー。
そして、級長 [を] やってた 人だったからな。
(B ウン) オメミダーナ、ソノ
(B うん) [私の親が言うには]「おまえみたいな、その、
アンダマノ ケアネ ヤズ [12] ワ、ソノ
頭の よくない 者は、その、
アンダマノ エー シトサ エンゲンバー、(B ウン)
頭の いい 人に [嫁に] 行けば (B うん)
ソノ、コンドモモ マコ°モ、(B ウン) ヨノナガサー
その、子どもも 孫も (B うん) 世の中に
ソノ、マンツ ジューニンナミンデア ナクッテモ、
その、まあ、十人並みではなくても
(B ウン ウン ウン) デハルヨーナ ヤズ
(B うん うん うん) [世に] 出るような 者 [を]
モズンダガラ (B ハハハハハ) ニダヨーナ ンドーシンデワ
持つんだから (B そうかそうか) 似たような 者同士では
ソノー、ワガネ [13] ンダガラ ンズ [14] ンノデ ソノ
その、だめなんだから」というので その、
オヤンドースカ° キメンダワンゲンダ。(B ハー)
親同士が [縁談を] 決めたわけだ。(B そうか)
サイウエア アソツカラ キタツカラ
幸い、あそこ [の家] から [縁談が] 来たから。
アソゴノ ウンズア ホンタァ ビンボーンデナ、(B ウン)
あその家は 本当は 貧乏でね。(B うん)
ビンボンデ カシエガネンバ カレネアガラ ホンタァ
貧乏で、働かなければ 食べられないから 本当は

シンデンダンドモ、 (B ウン)

[嫁ぎ先としては] つらいんだけど、 (B うん)

コーダノ マコ[°] ーワ ソノ、 タメヌア ソノ

子だの 孫は その ためには その

9B : ①アー エガニモ

ああ 確かに。

10A : ⑦エーダガラ ッテナ。 (B ウン ウン)

[この縁談は] いいんだから ってね。 (B うん うん)

ナンヌモ キノ ネアノヌサ。

[私は] なにも [結婚する] 気の [=が] ないのにね。

(B ハー) アルドンギ マンツツー、

(B そうか) ある時、 まあ。

オリエ ヨル ネンベツト シタドゴロア ソノ

私が 夜 寝ようとしたところが、 その

オヤンズド オフグロド デー [15]、

父親と 母親と いて、

ハナス アッカラー アダレ

「話 [が] あるから [ここへ来て火に] あたれ」

ズワゲダ (B ウン ウン ウン ウン)

と言うわけだ、 (B うん うん うん うん)

ミンナ ネデスマッテガラサー。 ッタ、

みんな [が] 寝てしまってから。 そしたら、

キョー オミエオ、 ソステ コーユードゴサ

「今日、 おまえを こういうわけで こういう家へ

ケル ゴドヌ スッタガラ、 (B ウン)

[嫁に] やる ことに したから、 (B うん)

アーンダノ コーンダノッテー イヤネンデ

ああだの こうだのって [文句を] 言わないで

イゲ ッテサ。

[嫁に] 行け」 って [言うの] ね。

(B ハハハハー) ソステ、 オヤンダズアー ソノ、

(B そうかそうか) そして、「親たちは その、

オメエオ アンズツカラ、 ミンデエ

おまえを 心配するから [相手を] 見て [決めた]。

オヤンダズノ キメダ メンガンワ [16]

親たちの 決めた / / / / は

クルッテルモンデネーガラ、 (B ウン) エゲヨ

狂っているもので [は] ないから (B うん) [嫁に] 行けよ

キモノンバ エッペア カッテケツ [17] カラ、 ッテサ。

着物を たくさん 買ってやるから」 ってね。

{笑} (B ウン) {咳} ソステ マンツ、
 {笑} (B うん) {咳} そして まあ、
 サドサレダワゲダ。(B ウ ウン)
 さとされたわけだ。(B うん うん)
 ハーデ、 フェンズ スタラ エンダガ
 はて、 返事 [を] したら いいのか、
 フェンズ サネンダラ エンダガ マンツ
 返事 [を] しないほうが いいのか、 まあ
 ワゲェ ワガンネガッタンドモ (B ウン ウン ウン)
 わけが わからなかったけども (B うん うん うん)
 マンツ、 ソノママ、ヌ ステ、 シ (B ウン)
 まあ、 そのままに して、 うん (B うん)
 ソステ スンバラグ タッタドコ° ロアナ、 (B ウン)
 そして しばらく 経ったところがね、 (B うん)
 オレア イネア アドヌ アレア、 サゲタンデ [18]
 私が いない あとで [=時に] あれは、 結納 [を]
 スタンダフンダッケ。(B ハー)
 した様子だったよ。(B そうか)
 ソノ サゲタンデモ ッシャネンダー。(B フーン)
 その [結納の] 儀式も [私は] 知らないんだ。(B ふうん)
 ソステー、 メアノトースーノ ホンダナ
 そして、 [結婚の] 前の年の、 そうだな、
 ジューエズカ° ズッコロ ソノー、 サゲタンデダンダンベ。
 11 月頃、 その 儀式をしたんだらう。
 (B ハー) ツク° ノトスノ、 カンゾエンデ
 (B そうか) 次の年の 数え [年] で
 ジュースンズノ トスンダッタモヤー、 (B ハー)
 [私が] 17 の 歳だったもんね、 (B そうか)
 イヨ、 イヨメコ° ニ ヨゴサエダ ヤンズア。
 ×× 嫁に、 よこされた 歳は。
 11B : ①ハー ジュースンズナー。
 ああ、 17 [歳] な。

【資料2】東京都台東区（部分）

1A : ⑦ウチンナカデサ (B エー) アノー ススハラ イヤルデシヨ。
 家の中でね (B ええ) あの 煤払い [を] やるでしょう。
 2B : ⑥ヤリマス。
 やります。
 3A : ①ネー。(B エー) デ コレワ コー ナンテ ユーノカナー
 ねえ。(B ええ) で これは こう なんて 言うのかなあ

(B {咳}) ソレゾレノ ウチデ キマッテ ナインダヨネ
(B {咳}) それぞれの うちで 決まって ないんだよね
ヒワネー。

日はねえ。

4B : ①エー シニチワネ。

ええ 日にちはね。

5A : ①ネー。 シコ° トノ ヤリクリ (B アイマニネ) デネー
ねえ。 仕事の やりくり (B 合い間にね) でねえ

(B エー) デモ カナラズ イチネンジューノ コノー

(B ええ) でも 必ず 1年中の この

ススオ ハラウンダ ッテンデ (B ハラッテサ スッカリ)

煤を 払うのだ というので (B 払ってね すっかり)

コレワ ナカ° ヤデモ ヤッタモンネ。

これは 長屋でも やったものね。

6B : ①ドコデモ ヤリマシタネ。

どこでも やりましたね。

7A : ①ネ (B エー) ホトンド オーダナー オーダナーデ コー
ね (B ええ) ほとんど 大店 大店で こう

デイリノ オトコシューヤナンカ ヤッテ (B エー) コー

出入りの 男衆やなんか [が] やって (B ええ) こう

バカニ ケーキヨク ヤルケドネー。 (B エー エー)

ばかに 景気よく やるけれどねえ。 (B ええ ええ)

エー ナカ° ヤー ナカ° ヤデー コドモワ コドモノ オー

えー 長屋 [は] 長屋で 子供は 子供の ××

ミブンデ テダスケ シテネ。 (B ソー) エー ケッコー。

身分で 手助け してね (B そう) えー けっこう。

ホントニ ススハライッテ スス デンダネ。

ほんとうに 煤払いって 煤 [が] 出るんだね。

8B : ⑥デマスヨ (A ネー) タクサンネー。 (A ネー)

出ますよ (A ねえ) たくさんねえ。 (A ねえ)

ダッテ モー ドッカラ ドコマデデスモノー。

だって もう どこから どこまでですもの。

(A ソーダネー ソイデ)

(A そうだねえ それで)

エンノ エンノシタカラ テンジョーカラネー。 (A ソーナンダヨ)

××× 縁の下から 天井からねえ。 (A そうなんだよ)

トダナノ オクカラ ナニカラ (A ウン) ナニマデデショー。

戸棚の 奥から 何から (A うん) 何まででしょう。

9A : ④ソイデ アンナカデー クモノスカ° オーインダカラ

それで あの中で クモの巣が 多いんだから

アンナニ クモカ° イタノカネー。
あんなに クモが いたのかねえ。

10B：⑥ムカシワ イタンデスヨ。 (A ネー)
昔は いたんですよ。 (A ねえ)
ダッテサー アノ ウラノネ (A ウン)
だってね あの 裏のね (A うん)
ウラカ° サー コー エンカ° ワカ° アッテサー (A ウン)
裏がね こう 縁側が あってね (A うん)
ソノ シタカ° コー トーリン ナッテルデショー。
その 下が こう 通りになっているでしょう。
(A ウン ウン ウン ウン)
(A うん うん うん うん)

ジブンノ ウチー ミンナ イロンナ アノー ナスダトカサ {笑}
自分の うち [に] みんな いろんな あの ナスだとかね {笑}
インキ° ンダトカ マイトクノヨー。 (A ウン ウン ウン)
インゲンだとか 蒔いておくのよ。 (A うん うん うん)
アサノ オツケノ ミニ ナルヨーニネ。
朝の おみおつけの 実になるようにね。
(A ソー ソー ソー ソー)
(A そう そう そう そう)

ソーイ トコロノネー ウエノ ホー ミルデショー。
そういう ところのねえ 上の方 [を] 見るでしょう。
(A ウーン) ト クモノ コンナ オーキーノカ° イタワネ。
(A うーん) すると クモの こんな 大きいのが いたわね。
(A イタンダナー) ダカラ ムカシワ クモ イマシタヨ。
(A いたんだなあ) だから 昔は クモが いましたよ。

11A：①ソーナンダネー。 ソエデ アレー クモダッテネー
そうなんだねえ。 それで あれ クモだってねえ
ズイブン シュルイカ° チカ° ウンダナー。 (B エー)
ずいぶん 種類が 違うんだなあ。 (B ええ)
ダッテー アノー コー ローカノネ (B エー) エー スミッコ
だって あの こう 廊下のね (B ええ) えー 隅
エンノシタノ スミッコナゾワ アノ サンカクン ナッテッタ
縁の下の 隅などは あの 三角になっていた
トコロエ コー クモノス ヤンデショー。 (B エー)
ところへ こう クモの巣 やるんでしょ。 (B ええ)
ソーカト オモート エニ カイタ クモノスミテーナー
そうかと思うと 絵に 書いた クモの巣みたいなのは
タイカ° イ ノキサキダヨネ。 (B エー) ンー
だいたい 軒先だよ。 (B ええ) んー

ソエデ ソノ ホカニ マタ ダイドコロノ ヨコッパラアタリダト
それで その ほかに また 台所の 横あたりだと
ナンカ シラネー イ アノ アヤトリノ イトカ°
何か 知らない × あの 綾取りの 糸が
コンカ° ラッタヨーナ スーノ。
こんがらかったような 巢の。

12B : ①ソー。 イロンナ スカ° アンノネ (A アンダヨネー)
そう。 いろいろな 巢が あるのね (A あるんだよねえ)
スニモネ。
巢にもね。

13A : ①ウン。 ソエデ クモダッテ オーキーンダノ チーチェーンダノ
うん。 それで クモだって 大きいのだの 小さいのだの
ウー アノー オシリノ デケーンダノ アシノ ナケ° ーンダノネ
うー あのう おしりの 大きいのだの 足の 長いのだのね
(B ソー。 エー) ニンソージャー ネー
(B そう。 ええ) 人相ではない

マー クモソーマデニ イッパイ アラーネー。
まあ クモ相/// いっぱい あるわねえ。

14B : ⑦クモダッテ イロイロ シュルイカ° アッテ (A アー)
クモだって いろいろ 種類が あって (A ああ)
イロンナ シロイノト クロイノト (A アー アッテネー)
いろいろな 白いのと 黒いのと (A ああ あってねえ)
マジッテルダノ ムジダノネ (A ウン)
混じっている [の] だの 無地だのね (A うん)
イロイロ イマスヨ。
いろいろ いますよ。

15A : ③ソナ ススカ° ミンナ イッペンニ イチネンジュー
そんな 煤が みんな いっぺんに 1年中
デチャウンダモンネー。 (B エー デモ アレ)
出してしまうものねえ。 (B ええ でも あれ)

16B : ④デモ アレデショー。
でも あれでしょう。

イマワ コノ トーキョーナンテ ユー トコロワ
今は この 東京なんて いう ところは
ソーユー クモナンテ ソー イナインデショ。
そういう クモなんて そう いないんでしょう。

17A : ②イナイケド アノー ホラ エー ハイトリク° モ ッテ ユーノ。
いないけれど あの ほら えー ハエ取りグモ っていうの。
(B エー) アノ コーユー グアイニ
(B ええ) あの こういう 具合に

アノー ナンテ ユーノカナー アノー
あの 何と いうのかなあ あの
クチバシーミテーナ テー モッテル ヤツカ° (B エー)
くちばしみたいな手 [を] 持っている ものが (B ええ)
アレ ピョッピョッテ トブンダケドサ。
あれ ピョッピョッと 跳ぶんだけどね。
デ ジッサイニ アノー ンー
それで 実際に あの んー
ハイオ コー ツカマエルンダケドサ (B エー)
ハエを こう つかまえるんだけどね (B ええ)
ウー ナンカ ツチイロノ クモ アレワ イルネ
うー 何か 土色の クモ あれは いるね
カンダアタリデモ。
神田あたりでも。
18B : ①アー ソーデスカー。
ああ そうですか。

【資料3】奈良県五條市（部分）

1A : ①アー。 (B ンー) ソノ、 X1 サントー オンナジ
ああ。 (B んー) その、 X1 さんと 同じ
***デ ソノー X2 サンモナー。
***で その X2 さんもねえ。
(B フーン。 フン フン フン) アルモー、 ンー、 ワリヤイニ、
(B ふうん。 ふん ふん ふん) あれも、 んー、 割合に、
ノンキソーニ ヤッテ ヤットルラシーナ。
暢気そうに やって、 やっているらしいね。
2B : ①アー アー チョーム [1] サンナ。
ああ ああ 長夢さんね。
3A : ③アノヒトモ アシー タタンノヤー。
あの人も 足 [が] 立たないんだ。
4B : ①ソー ソー ソー。 (A ナ) セヤケ アタマワナ、
そう そう そう。 (A ね) だけ [ど] 頭はね、
ワルイナイサカイナ。
悪くないからね。
5A : ①ウン、 ソラ ソー、 アタマ ワルナイ。
うん、 それは そう、 頭 [は] 悪くない。
6B : ②アタマ ワルイナイシ ホテ テーガー イゴイテ ジー
頭 [は] 悪くないし そして 手が 動いて 字 [を]
カケルサカイナ。 (A ン ソー ソー ソー ソー) ホンデ
書けるからね。 (A うん そう そう そう そう) それで

アシダケガ マー イゴ、ケヘン テ ユー、ダケデナー。

足だけが まあ 動かない というだけでねえ。

7A : ①ハー ハー ハー ハー。カタメーワー ワルインデケド コラー

はあ はあ はあ はあ。片目は 悪いんだけど これは

マエカラヤハカイナー。

前からだからねえ。

8B : ①アー メー ワルハンノケ。

ああ 目 [が] お悪いんですか。

9A : ①ハー。 (B フーン) ドクガンリ्यूア アノヒトワ。

はあ。 (B ふうん) 独眼龍だ あの人は。

10B : ①アレー。 (A ハー) フーン。

あれ。 (A はあ) ふうん。

11A : ④セヤケド ソラー、ソノー、サイキンニ ワン ナッタワケデナイシ。

だけどそれは、その、最近に 悪く なった訳ではないし。

(B フン) アノ モー ソラ モー ナラサレトルサカイニ、

(B ふん) あの もう それは もう 慣れておられるから、

(B フン) ン ヒトツデ モー ジューブン ヨーワ タセルンデ。

(B ふん) うん ひとつで もう 十分 用は 足せるので。

(B アー) タダ アルカレン チュダケノコトデナー。

(B ああ) ただ 歩けない というだけの事でねえ。

12B : ①フン。ホンデ アノヒトカッテ モー ソノ タッシャナトキカラナ、

ふん。それで あの 人だって もう その 達者な時からね、

マー エー カイタリナ、 (A ソ) センリ्यू ツクツタリ、

まあ 絵 [を] かいitariね、 (A そう) 川柳 [を] 作ったり、

ソんなー アノー シュミー、モットルサカイナ アナイシテ

そんな あの 趣味 [を]、持っているからね ああして

ビョーキナッタカッテナー (A アー アー アー アー)

病気になったってねえ (A ああ ああ ああ ああ)

ソレオ マー イキガイニ シテナー。 (A アー ソエデ マー)

それを まあ 生きがいに してねえ。 (A ああ それで まあ)

マー ソノー クヨクヨ クヨクヨ マイニチ セントナー、

まあ その くよくよ くよくよ 毎日 しないでねえ、

(A アー アー) スゴシテ イケルケオ コレガ ナンニモ

(A ああ ああ) 過ごして いけるけど これが 何も

シュミノナイシト アナイ ナッテ ミナハレ。 モー ホンマニ

趣味のない人 [が] ああ なって ごらんなさい。 もう 本当に

ウツビョーニ カカルカダッセ、 (A ダンダン モ スス)

うつ病に かかるかですよ、 (A だんだん もう xx)

ボケテシマウカナー アタマ。

ぼけてしまうかねえ 頭。

13A : ☆⑦ススンデシマウバックカリン ナンネナー。

[病状が] 進んでしまうばかりに なるんだねえ。

14B : ①フン。 ソナイ ナリマス (A フーン) ホンデ モー
ふん。 そう なります。 (A ふうん) それで もう

アーユーヒトノホーガ、 モー、 ソンナ

ああいう人の方が、 もう、 そんな

シュミノナイヒトノホーガナー、 ビョーキ (A フーン)

趣味のない人の方がねえ、 病気 [の] (A ふうん)

ススムノ ハイシ (A フン) ヨワンノ、

進むの [が] 早いし (A ふん) 弱るの [が]、

ハヨ ナリマスワナー。

早く なりますよねえ。

15A : ①フン。 ソー。 ソーナル ト オモウワナー。 (B ンー)

ふん。 そう。 そうなる と 思うよねえ。 (B ふうん)

ンデ アノヒトワー ショーギン スキエ。 (B アー)

それで あの人は 将棋が 好きで。 (B ああ)

ホナ、 ショーギノトモダチガー、 アノー チョイチョイ

そしたら、 将棋の友達が、 あの ちよくちよく

キテクレルソーナー。 (B ハー) オンデー キテクレントキワ

来てくれるそうだ。 (B はあ) それで 来てくれない時は

ワガメ ヒトリデ サスンヤ。

自分 ひとりで さすんだ。

16B : ①アッレー。 (A ハー) ヒトリデ ショーギ デキマンノケー。

あらあ。 (A はあ) ひとりで 将棋 [が] できるんですか。

アイテ ドー {笑}

相手 [が] ×× {笑}

17A : ④マー ゴーデモ ショーギデモ デケルラシ アレ シンブンニ

まあ 碁でも 将棋でも できるらしい あれ 新聞に

チョイチョイ、 ノットルワナー。

ちよくちよく、 載っているよねえ。

18B : ①ハーン。 ホデ コー ウッタラ アイテガ コー、

はあん。 それで こう 打ったら 相手が こう、

クル ッチョヨニシテ アイテノブンモ ウチマスンヤロ。

くる というようにして 相手の分も 打ちますんでしょう。

(A ソア ソア ソヤ。 {笑}) フーン。

(A そうだ そうだ そうだ。 {笑}) ふうん。

19A : ④ホンデ、 マー イツマデ イテモー カツモンモ マケルモンモ

それで、 まあ いつまで いても 勝つ者も 負ける者も

デケランカモワカランケドー。 (B フーン) イヤ コーユー

できないかもしれないけど。 (B ふうん) いや こういう

キテモ アル、 (B フン) コーユー テモ
きて [=打ち手] も ある、 (B ふん) こういう 手も
アル ッチューコトワ (B フン) ジブンデ ヤッパリ、
ある ということは (B ふん) 自分で やはり、
ヤットリヤー ハッケンスルンヤロナ。 (B アー) イママデ
やっていたら 発見するんだらうね。 (B はあ) 今まで
キー ツカンダケドモ (B フン フン。 フン)
気 [が] つかなかったけれども (B ふん ふん。 ふん)
コー ナッタトキニワ コー ヤッタラ (B フン フン)
こう なった時には こう やったら (B ふん ふん)
タスカルト。 (B フン) ユーフナコト
助かる と。 (B ふん) [そう] いうふうなこと [が]
ワカッテクンネン タブン。
わかってくるんだ たぶん。

20B : ①アー。 アンナ ショーギヤ ゴーデモ ソラ モー オクワ フコテ
ああ。 あんな 将棋や 碁でも それは もう 奥は 深くて
フコテ (A {笑}) ヘンナモン、 ナー。
深くて (A {笑}) そんなもの、 ねえ。

(A ソーラシー **ヤ) ハテシナイサカイ、 ンー ドコマデー
(A そうらしい **だ) 果てしないから、 んー どこまで
アノー デ [2] モー エー ッチューコト アレシマヘンワナ。
あの でもう いい ということ [が] ありませんよね。
(A アー) ナンボナト、 テー ア アルラシーサカイ。
(A ああ) いくらでも、 手 [が] × あるらしいから。
(A アー) ナー。 フーン。
(A ああ) ねえ。 ふうん。

21A : ⑦ワシラ ソナイ ソー、 ショーギモ アカナー、 ゴーモ
私 [は] そう その、 将棋も だめなら、 碁も
ヨー ウタン ナー。 (B ホー) モ コレ サッパリ ソノ、
打てない、 ねえ。 (B ほう) もう これ さっぱり その、
ソナハナシ デタトキニワ モー {笑} タダ
そんな話 [が] でした時には もう {笑} ただ

22B : ⑦ソノカーリ ホカノコト ミナハレ ナンデモ シハリマスワナ。
そのかわり 他の事 ごらんなさい 何でも なさいますよね。

23A : ①イーヤ ナンデモ ッテユーコト ナイ モ、 ダンダン
いや 何でも っていうこと [は] ない、 も、 段々 [と]
オトロシナッテモーテ。 {笑}
じゃまくさくなってしまって。 {笑}